

2019年9月22日

## 福音書からのメッセージ

ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。

(ルカによる福音書 16 章 10 節)

「不正な管理人のたとえ」と呼ばれるこの箇所は、とても理解しにくいものです。ある金持ちの財産を預かる管理人がそのお金を無駄遣いしており、それを誰かに告げ口されたそうです。主人は管理人に会計の報告を出すように言います。その結果管理人は、窮地に陥ります。

普通であれば、ひたすら謝って損害を賠償する約束をするところでしょう。「どうか職だけは奪わないでください。明日から生きていけなくなります」と、主人に泣いて懇願するかもしれません。

しかしこの管理人のとった行動は、それとは全く違うものでした。管理の仕事がなくなったときに、土を掘ることなどできない、物乞いも恥ずかしい。だからこう考えるのです。「管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ」。そしてこの管理人は、主人に借りのある人を一人一人呼び、証文を書き替えます。油や小麦の負債欄にある100という数字を50や80に、つまり借金を減らしていくのです。

金持ちの主人はこの管理人によって、またしても自分の財産を減らされてしまいました。管理人の無駄遣いによってまず減らされ、そして証文を書き替えられることによってさらに減らされてしまいます。普通であれば、この管理人は主人にこっぴどく怒られることでしょう。すぐに追い出されても仕方のないことです。ところが主人はこの不正な管理人の抜け目のないやり方をほめたというのです。

わたしたちの常識の中では、到底理解で



きないことで。主人は管理人の何をほめたのでしょうか。一つ挙げるとすれば、こういうことかもしれません。管理人は徹底して、「富」に対して忠実

でした。どんな手を使っても、富から離れないようにする。たとえそれが不正にまみれたやり方であったとしても、富に対して常に忠実であったのです。

このたとえは、弟子たちに語られました。弟子たちはイエス様に従っていました。しかし弟子たちの信仰は、中途半端なものでした。イエス様に従うと言っておきながら、十字架につけられるイエス様を見捨ててしまいます。

またこのたとえは、聖書を通じてわたしたちにも語られています。わたしたちはどうでしょうか。神さまの恵みに忠実に生きているのでしょうか。

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である」とイエス様は言われます。

わたしたちは何に忠実であるべきか、そして徹底的に忠実であるのか、イエス様は問いかけているのかもしれませんが。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>